

# 5月・6月の管理ポイント



株式会社 トモグリーンケミカル

第156号 2019年05月01日発行

5月6月は、ベントグラスの生育適期です。しっかりとした根を作り、夏を乗り越えるための準備をしましょう。

当社Webサイトにて  
バックナンバー掲載中  
<http://www.tomo-green.com/>



高温耐性向上

## ヒートファイター

ヒートファイターは、夏の厳しい暑さをベントグラスが生き延びる為のお勧め資材です。ヒートファイターを処理すると、植物自体が持つ高温耐性が活性化し、通常では弱体化・致死してしまう程の高温でも生き延びられるようになります。梅雨入り前後から定期処理する事で、ヒートファイターの効果を最大限引き出すことができます。

使用量：0.5ml/m<sup>2</sup> 散布水量：100-500ml/m<sup>2</sup> 散布間隔：14日



ベントの生育適期です  
土壤水分環境を整えましょう

## レボ (REVO)

5月6月はベントグラスの生育適期です。生育に適した土壤水分環境を整え、丈夫な根を育てましょう。レボは、「地際を乾燥させる（病害や藻を防ぐ）」「根圏の水分を少なめに保持する（気相の割合が増えるので根が十分な酸素を得られる）」「毛管水が繋がる（根が水を吸ったら、即、周りの土壤から水が供給される）」ので、土壤水分環境を、ベントグラスの生育に適した状態に保つことができます。土壤水分環境を常に良い状態で保つため、定期散布がお勧めです。

使用量：2ml/m<sup>2</sup>/月 散布水量：200ml~500ml/m<sup>2</sup> 散布回数：1ヶ月に1回~2回



土壤中の有害物質除去

## 光合成細菌

土壤中に発生する硫化水素やメルカプタンなどは、イヤな臭いがするだけでなく、根を痛めます。光合成細菌を処理して有害物質を除去しましょう。光合成細菌は、硫化水素などを分解するだけでなく、他の有用微生物の餌となるアミノ酸やATP、ADP（高エネルギーリン酸化合物：補酵素）などを分泌し、有用な土壤微生物の住みやすい環境を作ります。サッチリムーバーと組み合わせると、サッチを効率よく分解できます。

使用量：1~2ml 1ℓ/m<sup>2</sup>散布 月1~2回



光合成低下中の  
エネルギー補給

## グリーンメカ

梅雨時期は、日照不足で芝の光合成が低下します。糖・アミノ酸をたっぷり含んだグリーンメカで足りないエネルギーを補給しましょう。

使用量：2-10ml/m<sup>2</sup> 散布水量：1ℓ/m<sup>2</sup>



有機物の分解を促進

## サッチ・マネージャー

自然界に存在する微生物の中からサッチ成分に対して優れた分解能力のある有用菌を選抜した微生物資材です。様々な土壤環境に適応できるよう、16種類の有用菌（乳酸菌11種、枯草菌3種、酵母菌2種）で、構成されています。製剤1g当たり約400億個の菌配合で土壤中でも安定した効果が期待できます。

使用量：ラフ・FW 0.1-0.2g/m<sup>2</sup> グリーン 0.5g/m<sup>2</sup> 散布水量 0.2~0.5ℓ/m<sup>2</sup>

芝の三大ストレス ① 土壌水分



5月6月はベントグラスの生育適期です 丈夫な根を土壌の広く深い範囲に生育させましょう

ベントグラスは冷涼な気候を好む植物で、生育適温は15-25℃です。寒暖差が激しく高温多湿の日本の気候には適していないので、常に沢山のストレスに晒されて必死で生きています。

厳しい夏を乗り越えるため、生育適期もストレス緩和対策をしっかりと、丈夫な根を出来る限り広く深い範囲に伸ばしましょう。



ベントグラスが大きなダメージを受ける三大ストレスは、「土壌水分(乾燥・過湿)」「高温」「強光」です。ストレスの有無で、ベントグラスの生育具合は大きく変わります。ストレスがベントグラスに与える影響とストレス緩和対策方法を確認してみましょう。

今号は「土壌水分ストレス」、次号は「高温ストレス」と「強光ストレス」をとりあげます。

① 土壌水分ストレス ～ストレスが生育期のベントグラスに与える影響～

**ストレス殆どなし**

散水・降雨後

適度な水分

散水、降雨後 水は土壌中に行き渡り、適度な水分を維持している  
ベントグラスの生育に適した土壌水分環境にありストレスが殆どない状態

根が深く広い範囲に生育している

- ・水や養分を必要な時に吸収できる
- ・毛管水が繋がっているため根が吸水すると周りから水が供給される
- ・酸素が十分あり根と微生物が呼吸できる
- ・好気性土壌でベントグラスの根に有害な物質がない

**ストレス過多**

散水・降雨後

乾燥 過湿

散水、降雨後 土壌水分がバラつき、乾燥部分 過湿部分が発生している  
ベントグラスが生育し難い土壌水分環境にありストレスを受けている

病害発生 酸欠 有害物質発生

乾燥: 散水降雨後に適度に水があった部分 根が水を吸収すると水が無くなり乾燥する

過湿: 散水降雨後に乾燥していた部分 萎れる・枯れる 新たな根が生育出来ない

酸欠: 散水降雨後に過湿していた部分 酸欠で根腐れ 嫌気性微生物増殖

毛管水が途切れているので水が停滞する 根が吸水しても水が供給されない

根の生育が抑制されている

ベントグラスの生育に適した土壌水分を維持してストレスを緩和し、丈夫な根を土壌の広く深い範囲に生育させましょう。

界面活性剤を利用すると、土壌水分の管理がしやすくなります。様々な特徴を持つ界面活性剤が販売されているので、管理方法や土壌の状態に合うものを選択しましょう。